



天野進吾が視る。語る。今日のできごと。まつりごと。

ホームページを見てください! <http://www.amano-shingo.info>

指摘した「期日前投票」の問題点

投票率アップが藪蛇となる

先の参議院選挙は与党の惨敗に終わりましたが、各種の報道機関、就中、週刊誌はお得意の粗探しをテーマとして購買意欲を誘っていました。

毎度のこと、手馴れた手法ではありますが、全国津々浦々から選挙にかかわる奇抜な事実を探してくるものだと感心させられます。

その折、週刊文春がこれまで私がこのSHINGO SCOPEで警鐘して参りました選挙上の問題点を指摘しておりました。

期日前投票の問題点

その一つが、最近の「期日前投票」の無責任な対応であります。今回の参院選挙では実に全有権者の一割が「期日前」に投票したと選挙は発表しております。

しかし、この投票行動をみると、折角の日曜日、特段の予定はないが、遠い指定された投票所まで出向くのは億劫だから、寧ろ「街へ出たついでに市役所によつて」の気楽さが功を奏し未曾有の期日前投票になったのであります。

勿論、そのことに異論を挟む意図はありませんが、最近では公示の翌日から投票は可能、このことは「投票用紙を持参せずとも、ただ生年月日と住所・氏名を書けば確実に投票できる仕組みであります。

詰る所、選挙管理委員会はまだ投票率の向上を第一義としているようであります。

だからこそ週刊誌の紙面には「身代わり投票も簡単」との見出しで大分の自衛隊駐屯地の陸士長の事件が紹介され、更に奈良県や栃木県では期日前投票した人物が投票日にも投票し、2票とも有効票になったとのことであります。

実は私の経験でも、某企業の社長が応援する候補者の為に勤務時間中、バスを用意して、否応なく社員を

投票所に送り込んだ例を聞いております。また老人介護施設や個人病院における投票事務にも正直、見直すべき問題点が多々あります。

出口調査の問題点

一方、出口調査について云えば、近年、開票事務が始まる前にテレビの選挙特報では開票率1%で当落を発表しておりますが、これは所謂「出口調査」に基づくものでその数値は極めて正確であると言われております。

実はこの「出口調査」がもたらす欠陥は、往々にして調査の途中で、その情勢が夫々の選挙事務所に漏

れてしまうことです。

その事例として、週刊文春は某有力選挙事務所の対応を指摘しておりました。それは投票時間の締め切り三時間前から、出口調査による「情勢不利」を訴えて、声高に投票に行くよう必死で関係者に電話で依頼する風景を写しておりました。そんな場面は過日の静岡市長選挙にも見られました。

緊迫した選挙ではこの出口調査の概要を逸早く知り、対処した陣営に勝利をもたらすとも云えるのであります。それは明らかに選挙の公正を害する行為と云わざるを得ません。

一体何のために出口調査をやるのですか、寧ろブラウン管に刻々と変動する得票に一喜一憂した嘗ての選挙風景の方が、選挙への関心をもたらせるものと私は考えますが如何でしょう。早速に「期日前投票」と「出口調査」について対応策を講ずべきと思えます。

天野進吾の「ホームページ」を開いてください。

昨年春、友人の指導を戴いてホームページを立ち上げて以来、小まめに自身の考えを誰憚ることなく、書き込んでおります。お陰さまで最近毎日200人程の方に読んで頂いております。是非、お暇の折にはご覧下さい。

検索は「天野進吾」ですぐ出ます。このSCOPEも毎号掲載されております。

(8月6日ホームページから)

広島に原爆が投下された日

昭和20年8月6日の早朝、太平洋の孤島「テニアン」島から「B29」爆撃機が原子爆弾を抱えて飛び立ったのであります。三日後には

長崎に向けて……

数年前、この小さな島「テニアン」を訪れました。大戦末期、米軍のテニアン上陸に際し、ここに住む多くの日本人が捕虜になること恐びず、切り立った断崖から身を投げた現場に立った時、何故か頬を濡らしたことを今でも記憶しております。

処で、狭隘なこの島には見るべきものは更になく、住民も僅かの、淋しく貧しい世界が現在のテニアンであります。

殆ど通ることもない九十九折(つづらおり)の細道を気ままに散策すると、その先になんと朽ちかけた木製の鳥居が佇んでおりました。それは将にこの地に日本人が生きていた証しでした。

訪れる人もなく、淋しく瓦解した神社は悲しい歴史を物語るようにそこにありました。

「丸子と手越」の周辺 ②

先月号では丸子の名刹・誓願寺を紹介いたしました。今日は、スコップ33号にも紹介した吐月峰・柴屋寺と赤目ヶ谷の起木神社について掲載いたします。

吐月峰・柴屋寺

1448年、島田の鍛冶屋に生れた宗長は若くして今川義忠に仕え、これが縁で関東に下向する連歌師・宗祇と邂逅、後にその門下に入ることとなります。

今川家は代々、文武両道に優れた家系ながら、公家文化を尊び、文化面では殊に連歌を愛好したのでありました。

義忠亡き後、宗長は今川家の連歌の師として、今川氏親の庇護のもと、丸子の泉ヶ谷に小さな草庵を建てここに住まいしたのであります。

この寺の背後にある山の窪みから仲秋の名月が吹き出る様に昇るところから、月を吐く峰即ち「吐月峰」と名付けられたのであります。また境内を圧倒する竹林は、「京都銀閣寺」を模して宗長自ら京都から移植したものとされており。

また江戸時代にこの竹を利用して丸子住民は東海道を往復する旅人の必需品として「携帯用吸殻入れ」を考案、この竹筒に吐月峰の焼印を押して販売したため、漢字「吐月峰」を「はいふぎ」と読ませるところと

なりました。(広辞苑より)

庭園は国の史跡名勝に指定され、多くの文人墨客が訪れる名所でもあります。現在の正式名称は天柱山吐月峰柴屋寺といい臨濟宗妙心寺派のお寺ですが、極端に檀家の少ないお寺のひとつであります。

起木神社

丸子赤目ヶ谷では、近年、盛大に起木神社の大祭が行われております。伝承では、源頼朝が上洛する途上この地先で梅の大木が倒れ、一行の行く手を塞いだため、頼朝は伐採を

命じた処、その大木は一夜のうちに起き上がり以前と同様青葉を繁らせたと言われております。

人間関係が過疎化する昨今、地域のかかわりの手立てとして、各地に点在する神社の年中行事、例えば「輪くぐりさん」などを利用して地域の連携を図ることは、人間関係が過疎化する昨今、本場に大事なことです。大祭関係者のご尽力に敬意を表します。

なお、「赤目ヶ谷」の出典は、この神社の祭神が菅原道真で、かれの愛した紅梅に因み、この地を「赤梅ヶ谷」、これが詰って現在の「赤目ヶ谷」になりました。

一寸一言

私の雑記帳から

村八分について

むかし、村人たちが平和に生活するための鉄則として「村八分」という掟がありました。

私達が幼い頃、その意味するところも考えず、「はぶ」にするといつて自分たち仲間から嫌われ者を追放しておりました。

「はぶ」とは「村八分」の略語ですが、最近の子供たちの間では殆ど使われません。否、「村八分」の言葉も殆ど死語に等しいと言えるでしょう。さて、私達が生きていくための付き

合い、即ち、冠・婚・病氣・旅・水害・出産・建築・年忌の八つに火事と葬式を加えた10の付き合があると云われてきましたが八分とは火事と葬式以外、一切を断つという風習が語源であります。

勿論、協力しあつての村社会であれば、10の掟も理解できますが、今日の私達の社会は正直言つて「村9分」と云える阻害された環境ではないでしょうか。

「起木神社」のお祭りに地域の人が総出で手伝う習慣は人と人が過疎化されていく時代だからこそ、是非これからも続けて頂きたいと思

彩時記

「秋のはじまりは虫の声」

夏の終わりの夕暮れ時に、どこからともなく聞こえてくる虫の声は、秋の始まりを告げる風情のあるものです。

虫の鳴き声を楽しむ遊びは、平安時代の貴族たちによって始められ、江戸時代になると、俳句などをたしなむ風流な人たちの間で、虫の声を楽しむ「虫聴き」が行われるようになりました。地味で小さな虫たちが、その姿とはうらはらに楽器のような美しい音色を奏でることに、当時の人々は心ひかれたのかもしれない。

最近では虫を苦手と感じる人も多いようですが、秋の虫たちが奏でるきれいな音色には、ヒーリング効果もありそうです。スズムシ、マツムシ、カンタン、クツワムシ、ウオマイ、エンマコオロギ…。少し郊外の原っぱや河原に行けば、まだまだ虫の声が聞けるはず。あなたは、何種類虫の鳴き声を聞きわけることができますか。

歴史講座のお知らせ

町内会の集会、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。嬉しいことに最近、グループや町内会などで『天野進吾』の歴史講座の要望が増えて参りました。

このSHINGO-SCOPEの郷土史が好評です。その現れかもしれません。どうぞ、お気軽にお声掛けください。